
CDP 2024 コーポレート完全版質問書 スコアリングイントロダクション



バージョン管理

バージョン	公開日	概要
1.0	14/06/2024	第一版(英語)

目次

CDP 2024 コーポレート完全版質問書.....	1
スコアリングイントロダクション.....	1
バージョン管理.....	2
イントロダクション.....	5
スコアリング原則.....	5
回答スコアリング.....	5
その他スコアリング資料.....	5
コーポレート完全版質問書のスコアリング.....	6
集約された質問書のスコアリング.....	6
フォレストのスコアリング.....	6
コーポレート完全版質問書とコーポレート SME 版質問書.....	7
CDP 質問書におけるセクターとスコアリング.....	7
スコアリングのアプローチ.....	8
レベル毎のスコアリング.....	8
情報開示.....	8
認識.....	8
マネジメント.....	8
リーダーシップ.....	8
最終スコアの配分.....	8
スコアレベル毎のスコアの算出方法.....	8
最終スコアの算出方法.....	9
無回答と回答遅延.....	10
必須要件.....	10
スコアリング基準の理解.....	11
基準の構造.....	11
スコアリングのアプローチ.....	11
比例配分を用いたスコアリング.....	12
最も高得点となる回答行を採点するスコアリング(ベスト・ロウ・スコアリング).....	12
集約された質問書におけるスコアリングのアプローチ.....	12
回答ルート.....	13
他の質問との照合.....	13

自由記述回答の評価	13
明確な根拠.....	14
説明の記述.....	14
時間軸を含む事例.....	14
免責事項.....	15
フィードバックとお問い合わせ先.....	15
付録 I - 利益相反に関するポリシー	16
回答スコアリングにおける利益相反に関するポリシー.....	16
スコアリング基準の作成.....	16
スコアリングプロセス.....	16
スコアに影響を与える資金提供と行為の制限.....	17

イントロダクション

スコアリング原則

CDP のミッションは、市場原理/市場関係者と協働し、組織に環境や天然資源への影響を開示して悪影響を低減するための行動を起こすことを促進し、そのためのビジネスケースを強調することです。最終的に、スコアリングは、CDP への開示を通じて組織が環境への影響を測定し、管理することを奨励する役割を果たします。

CDP は、質問書の各質問にスコアを付ける方法を詳細に規定したスコアリング基準に照らして回答者を評価することでスコアリングを行い、回答組織の環境スチュワードシップに対する進捗状況进行评估します。スコアリング基準は、ベストプラクティスを達成するためのロードマップを組織に提供し、ベストプラクティスに合わせてスコアリング基準を毎年改訂することで、CDP は環境パフォーマンスを向上させるための組織行動の変化を促進することを目指しています。

スコアリング基準では、回答内容の詳述の度合いや、環境課題への認識の度合い、環境課題の管理、環境スチュワードシップに向けた進捗度合いを評価します。CDP は透明性を高めるために、スコアリング基準をオンライン上で公開しています。

回答スコアリング

CDP のスコアリングは、CDP によってトレーニングを受け、認定されたスコアリングパートナーによって実施されます。CDP 内部のスコアリングチームは、全てのスコアとデータの質のチェックを行い、各スコアリングパートナーと各サンプルの間でスコアリング基準が守られているか、品質のチェックを行っています。

CDP のスコアリングパートナーは、各組織が CDP に回答した回答内容に基づいてスコアリングを行います。CDP や CDP スコアリングパートナー、レポートライターが、個々の組織の回答に記載された情報を検証することはありません。スコアリング基準に特別に記載がない限りは、CDP への回答以外から得られる情報を、スコアリング過程で考慮することはありません。組織のウェブサイトやサステナビリティレポートなどの外部情報をスコアリングの際に考慮することはありません。CDP 回答で提供される Web リンクまたは添付ファイルも、スコアリング基準で特に要求されない限り、スコアリングの対象にはなりません。

回答組織は、回答内容を一般公開するか否かに関わらず、CDP で回答した内容は、回答要請組織に共有されることについてご理解ください。そのため、自社の現在の状況を可能な限り反映した完全で正確な情報を回答するようにお願いします。

2024年、回答が、英語、日本語、中国語、スペイン語、ポルトガル語で提出された場合スコアリング対象となります。これらの言語で提出されない回答は、採点の対象にはなりません。

その他スコアリング資料

この文書は、CDP 2024 コーポレート完全版スコアリング基準、CDP2024 必須要件、CDP2024 コーポレート完全版質問書、CDP2024 コーポレート完全版報告ガイダンスと併せて活用いただきますようよろしくお願いいたします。報告ガイダンスでは各質問を回答する際に回答に含めていただきたい要素を説明しています。

スコアリング基準は、回答組織がこのガイダンスに沿って回答データを提供することに基づき機能するため、報告ガイダンスに記載されている指示に従ってデータを報告することが重要です。

コーポレート完全版質問書のスコアリング

集約された質問書のスコアリング

2024年には、気候変動、フォレスト、水セキュリティに関するCDPコーポレート質問書が1つのコーポレート質問書に集約されました。この質問書を通じて、組織は1度の情報開示で複数の環境課題に関するデータを提供することができ、より総合的でバランスの取れた報告を促進できます。

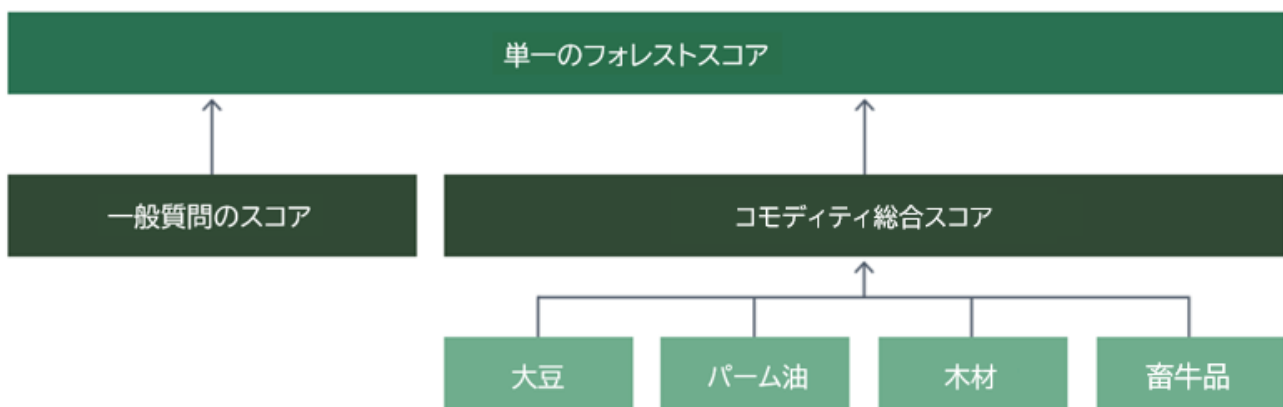
これまで別々だった質問書は現在集約されていますが、CDPは2024年も引き続き気候変動、フォレスト、水セキュリティのスコアを個別に付与します。それぞれの環境課題分野には、独自の基準があります。コーポレート完全版質問書には13のモジュールがあります。モジュール1～6、12、および13は集約されており、これらのモジュールの質問は複数の環境課題分野を網羅しています。そのため、これらのモジュールの質問は、気候変動、フォレスト、水セキュリティについて別々の基準を使用して、複数の環境課題分野について採点されます。一方で、モジュール7～9は環境課題分野に特化しているため、それぞれの環境課題に対して採点されます。モジュール10と11はプラスチックと生物多様性の環境課題分野が提示されますが、2024年には採点されません。

フォレストのスコアリング

金融サービスセクターに属さず、フォレストに関する情報を開示している組織は、7つの森林リスクコモディティについて報告することが求められており、そのうち4つのコモディティ(木材、パーム油、畜牛品、大豆)がスコアリングの対象になります。組織は、調達または生産するすべてのコモディティについて開示することが求められます。

2024年、CDPは例年の個々のコモディティスコアに代わり、単一のフォレストスコアを導入しました。いくつかの質問では、要求されるデータはフォレスト関連事項全般に関するものです。その他の質問では、組織は開示する森林リスクコモディティに固有のデータを提供する必要があります。コモディティに特化した質問のスコアリングにより、コモディティ総合スコアが算出され、それが単一のフォレストスコアに反映されます。

単一のフォレストスコアの構成要素



すべての環境課題分野と同様に、フォレスト関連の質問はスコアリングカテゴリーに分かれています。すべてのコモディティ別の質問は、コモディティ別のスコアリングカテゴリー（「コモディティの可視性と報告」、「DCF ステータス」、および「目標」）に割り当てられます。これらのカテゴリーで獲得したスコアが、コモディティ総合スコアを構成します。2024 年には、開示された各コモディティ（木材、パーム油、畜牛品、大豆）に付与されたポイントが、コモディティ総合スコアに均等に加算されます（たとえば、組織がパーム油と大豆について開示している場合、各コモディティに付与されたスコアはコモディティ総合スコアの 50%を占めます）。フォレストスコアリングのカテゴリーと重み付けの詳細については、CDP 2024 年フォレストスコアリング カテゴリーと重み付けに関する文書を参照してください。

コーポレート完全版質問書とコーポレート SME 版質問書

CDP は、中小企業(SME)が大規模な組織とは異なる報告能力と要件がある可能性があることを認識しています。このため、CDP には、コーポレート完全版質問書とコーポレート SME 版質問書の 2 つのコーポレート質問書があります。

コーポレート完全版質問書は大企業に適しており、セクター固有のデータポイントが含まれています。一方、SME 版質問書は中小企業のニーズに合わせて作成されており、データポイントの数が少なく簡素化されています。CDP の中小企業適格基準を満たす組織のみが、SME 版質問書に回答することができます。

本書では、コーポレート完全版質問書のみを対象としたスコアリングの概要を説明します。中小企業(SME)のスコアリングについては、中小企業(SME)スコアリングイントロダクションをご参照ください。

CDP 質問書におけるセクターとスコアリング

影響の大きいセクターの組織には、一般セクター質問に加えて、そのセクターに固有のデータポイントと質問が提示されます。スコアリングと要件は、各セクターおよび環境課題分野に関連するデータポイントによっても異なる場合があります。

組織に割り当てられるセクター固有の質問は、CDP の活動分類システム (CDP-ACS) によって定義されます。このシステムは、組織が収益を得ている活動に焦点を当て、それらを気候変動、フォレスト、水セキュリティに関して組織に及ぼす潜在的な影響と関連付けることで組織を分類しています。

組織は、最大 4 つの質問セクター（「一般」を含む）を割り当てることができます。ただし、組織が CDP のスコアリング対象となる場合、**主要な質問セクター 1 つについてのみスコアリング**されます。

金融サービスセクターの組織には、この部門に特化した集約された質問モジュールであるモジュール 12 が提示されます。2024 年には、気候変動やフォレストと並んで、初めて水セキュリティがスコアリング対象となります。

金融サービス組織のフォレストおよび水セキュリティのスコアは、いずれも非公開であり、情報開示組織とのみ共有されます。

鉱業プロジェクトを実施している組織には、鉱業プロジェクトに関連した生物多様性に関する追加質問とデータポイントが提示されます。これらのデータポイントは、コーポレート質問書全体における他のすべての生物多様性およびプラスチックのデータポイントと同様に、2024 年には採点されません。

スコアリングのアプローチ

レベル毎のスコアリング

回答組織は、環境ステewardシップに向けた進捗を示す以下の4つのレベルで評価が行われ、どの段階にあるのかが示されます。4つのレベルとは、情報開示、認識、マネジメント、リーダーシップと呼ばれます。

情報開示

質問書のほぼ全ての質問は、情報開示の度合いを評価されます(生物多様性とプラスチックに関する質問を除く)。情報開示スコアは、組織の報告の完全性を測定しています。各質問に割り当てられる点数は、要求されたデータ量とデータ利用者にとっての相対的な重要性の両方に依存します。

認識

認識スコアは、環境課題が事業とどのように関連するかについての組織の評価の包括性を示しています。認識スコアは、組織が初歩的なスクリーニングや評価を超えて環境課題に対処するための行動を取ったことを示すものではありません。

マネジメント

マネジメントポイントは、組織が環境課題に与える影響を認識した上で、良好な環境管理に関連する行動の根拠を提供する回答に対して付与されます。マネジメントスコアは、組織が環境への影響を管理しているかどうかを測定しますが、その分野のリーダーとしての地位を確立する行動を組織が行っているかどうかを示します。

リーダーシップ

リーダーシップを獲得するためには、組織は活用する戦略と実行する行動においてベストプラクティスを実証する必要があります。これらの行動は、環境ステewardシップを推進するためにCDPが協働している機関によって策定されたベストプラクティスを表しており、多くのケースは、既に環境方針や環境活動において主導的な企業によって実施されている内容です。

最終スコアの配分

スコアレベル毎のスコアの算出方法

回答組織が所定の環境課題分野のスコアリング基準に対して評価されると、スコアリングレベルごとに最終的なパーセンテージスコアが算出されます。情報開示および認識のスコアリングレベルでは、獲得可能なポイント数のうち付与されたポイント数の単純なパーセンテージが計算されます。マネジメントとリーダーシップのスコアリングレベルについては、加重パーセンテージが計算されます。

CDPは、異なる主要セクターで活動する組織は、それぞれ異なる方法で環境課題の影響を受け、管理していることを認識しています。最終スコアの算出においてこのセクターの特異性を考慮するために、CDPはマネジメントレベルとリーダーシップレベルでのスコア算出に重み付けシステムを使用します。

質問書内のスコアリング対象となるすべての質問は、スコアリング対象となる環境課題分野ごとにスコアリングカテゴリーに割り当てられます。各カテゴリーの重み付けは、全体のスコアにおけるセクターの相対的な重要性を反映しています。

重み付けは、スコアリングカテゴリごとにマネジメントとリーダーシップのスコアを算出することによって適用されます（分子/分母 * 100）。これらのパーセンテージベースのスコアは、カテゴリの重み付けに対する達成ポイントの割合を算出することによって、レベルごとのカテゴリスコアに変換されます: カテゴリの重み付け (%) / 100 * マネジメント/リーダーシップスコア (%)。各レベルのスコアカテゴリが合算され、レベルごとの総合最終スコアを算出します。

CDP のカテゴリと各環境課題分野の重み付けの詳細については、2024 年のカテゴリと重み付けの文書を参照してください。

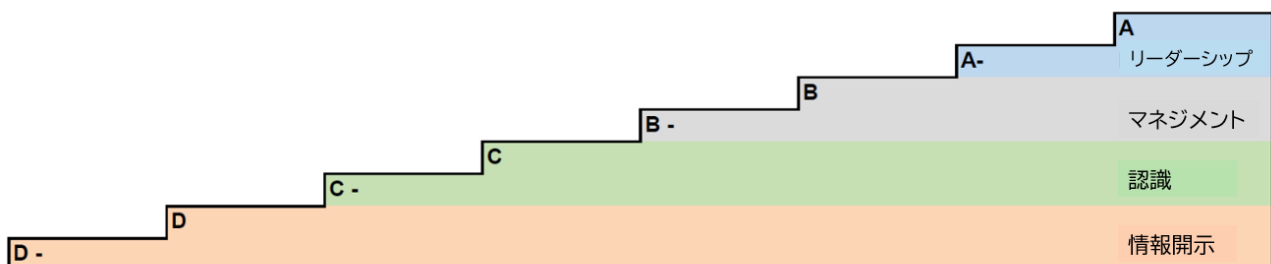
最終スコアの算出方法

回答組織には、採点された環境課題分野ごとに、A から D- までの最終スコアが割り当てられます。各レベルには2つのスコアが用意されており、そのスコアリングレベル内で獲得したポイントのパーセンテージに基づいて割り当てられます。

質問書の全ての分野にわたる完全な報告および一貫した進捗報告を促進するには、回答組織が次のスコアレベルが付与される前に、その下のスコアレベルで最低要件を満たす必要があります。これは閾値システムによって達成され、あるレベルで最低スコアを獲得すると、その上のスコアリングレベルに移行することができます。スコアの閾値が達成されない場合、組織の最終スコアは下のレベルに留まります。このアプローチにより、一部の分野にだけ特化して優れていて他の分野のパフォーマンスが不十分であるという状態を抑制することができます。

CDP はスコアリングレベル間の移行に必要な閾値を暫定的に設定し、スコアリング期間中に、スコアリングレベル間の回答の分布が回答の現在の進捗レベルを代表するよう、見直します。CDP は、スコアリリース前のいかなる時点においても、これらの閾値を調整する権利を留保します。

レベル	気候変動	フォレスト	水セキュリティ	スコア
情報開示	1-49%	1-49%	1-49%	D-
	50-79%	50-79%	50-79%	D
認識	1-44%	1-44%	1-44%	C-
	45-79%	45-79%	45-79%	C
マネジメント	1-44%	1-44%	1-44%	B-
	45-79%	45-74%	45-79%	B
リーダーシップ	1-79%	1-79%	1-79%	A-
	80-100%	80-100%	80-100%	A



無回答と回答遅延

CDP から回答要請を受けている全ての組織が回答を提出している訳ではありません。回答要請を受けているものの、無回答である場合は、CDP が評価する上で十分な情報を提供できなかったことを示す F のスコアとなります。スコアリングの締切を過ぎたあとに CDP に回答した場合には、スコアは付与されず、“not scored”と表示されます。

必須要件

CDP は、各レベルで最低スコアを満たせば次のレベルに進むことができるというだけでなく、必須要件も評価体系に取り入れています。あるスコアレベル内でスコアを獲得するには、回答においてこれらの要件を満たす必要があります。あるスコアレベル内でスコアリングされる閾値を超えている場合でも、そのレベルに関連するすべての必須要件を満たしていない場合は、そのレベルのスコアを受ける資格はありません。

これまで、CDP は「A」スコアを獲得するための必須要件、つまり CDP の A リストに入るために組織が満たさなければならない要件のみを適用していました。2024 年、CDP は気候変動のスコアリングにおいて「認識」「マネジメント」「リーダーシップ」の各レベルでの必須要件と A リストに入るための新たな要件を導入しました。これにより、CDP 気候変動のスコアは、各レベルで一貫した報告のベースラインが設定され、すべての組織が適切な情報開示のベースラインに到達するための重大な隔たりを確実に埋められるようになります。また、組織が環境課題をどのように評価し、対応しているかを理解する上で重要な主要データポイントが確実に含まれるようになります。2024 年の気候変動に関する必須要件の詳細については「2024 年気候変動 必須要件」をご参照ください。

フォレストとウォーターのスコアの必須要件は、リーダーシップレベルの適格性に対してのみ適用されます。しかし、世界中で環境問題への懸念がますます高まる中、変革に向けた緊急かつ協調的な変化の必要性を反映して、フォレストとウォーターの環境課題の領域に新たな要件が導入されました。CDP は今後、これらの環境課題の領域の必須要件を拡大していく予定です。フォレストとウォーターに関する必須要件の詳細は「2024 年フォレストと水セキュリティに関する必須要件」をご参照ください。

スコアリング基準の理解

基準の構造

スコアリング基準は、各質問について、4つのスコアレベルのそれぞれの具体的な採点基準と、その質問の配点の詳細を示す表を提供します。採点基準では、そのスコアレベルでポイントを獲得するために、どのような条件を満たす必要があるのかを詳しく説明しています。配点表は、各スコアレベルで達成可能な最大ポイントを示しています。

配点表はレベルごとに「得点(numerator)」と「配点(denominator)」の欄が設定されています。得点欄は、各スコアレベルで得点可能なポイントのうち、獲得できるポイントを示しています。得点(numerator)と配点(denominator)は通常は同じですが、得点(numerator)が配点(denominator)より小さい場合は、回答者がそのレベルに定められたすべての基準を満たしていても、得点可能なすべてのポイントを獲得することはできないことを示します。場合によっては、得点(numerator)と配点(denominator)の欄で得点可能なポイントが異なることがあり、これは基準内で適用される回答ルートによって獲得できるポイントが異なることを示しています。

各質問のスコアリングには、質問に対する回答として提供された情報のみが利用されます。他の質問で提供された回答の参照は、スコアリング基準で指定されている場合を除き、スコアリングプロセスの一部として考慮されません。

無回答の質問は、その質問または一連の質問の最大の配点に対して 0 点の得点となります。特定の重要なデータポイントの場合、無回答の質問には、その質問で得点可能な最大ポイントよりも大きい配点に対して 0 点の得点となる場合もあります。これらの重要なデータポイントはスコアリング基準で特定の回答ルート(「非開示ルート」と表示)で強調されています。

スコアリングのアプローチ

CDPのコーポレート完全版質問書には複数のルートが含まれているため、特定の環境課題領域の回答者全員が同じ質問を目にするわけではありません。選択形式の質問において、どの選択肢を選択するかで後に続く質問が異なり、配点の合計は異なってきます。多くの場合、“Yes”を選択した組織の方が、“No”を選択した組織よりも、より大きい配点になります。このように異なる質問のルートがスコアに影響しないよう、スコアは正規化されてパーセントの値で表示されます。最終スコアは、獲得した得点の合計を回答すべき全ての質問の配点の合計で除して計算します。質問内容が自社に該当せず、より少ない質問数しか提示されない場合であっても、その組織は評価上不利になることはありません。

ポイントを付与する方法は質問ごとに異なり、回答企業は回答を準備する際にスコアリング基準を詳しくチェックして、得点の割り当て方法を理解することをお勧めします。

いくつかの質問では、与えられた各データポイントにつき、その質問で得点可能な最大ポイントまで、ポイントまたはポイントの一部が累積的に与えられます。その他の質問では、ポイントが付与されるためには、要求された全てのデータポイントを提供する必要があります。後者の場合、回答欄を空白のままにしたり、必要なデータポイントを提供しなかったりすると、その質問の得点は 0 ポイントとなります。

表形式で複数の列の回答が求められるようなケースにおいては、いくつかのスコアリングの形式があります。すべての回答欄への記入がなされていないと得点とならない場合もありますが、最高スコアとなる回答のみが得点に採用される場合もあります。

比例配分を用いたスコアリング

回答されたデータの数に比例して得点が与えられる場合もあります。このスコアリングのアプローチは、報告された情報量が回答者によって異なる可能性のある質問で使用されます。表で提供される情報量に比例してポイントを付与することによって、開示されたすべての行について完全な回答を行うことを促進します。得点は、表内で記入された個々のセルの数に比例して、または表内に記入された行の数に比例して与えられます。

スコアリング基準には、さまざまなタイプの比例配分(セルごと、行ごと)があり、以下の表にまとめています。

比例配分を用いたスコアリングの種類	採点基準
表内に記入したセルの数に比例して得点を配分するスコアリング。1行のみ採点される場合もあれば、複数の行が採点される場合もある。	表示されているセルの数に応じて、記入したセルの数に比例して、ポイントが付与されます。 この質問では最大 X ポイントが付与されます。
回答した行の数に対して、記入したセルの数に応じて比例して得点を配分するスコアリング。すべてのセルが記入されていない行に対しては、満点にはなりません。	回答した行の数に対して、記入したセルの数に比例してポイントが付与されます。部分的に記入された行は満点になりません。 この質問では、最大 X ポイントが付与されます。
回答した行の数に対して、すべてのセルを記入した行の数に応じて比例して得点を配分するスコアリング。すべてのセルを記入していない行に対しては、ポイントは付与されません。	回答した行の数に対して、すべてのセルを記入した行の数に比例してポイントが付与されます。部分的に記入された行にはポイントは付与されません。 この質問では最大 X ポイントが獲得可能です。

最も高得点となる回答行を採点するスコアリング(ベスト・ロウ・スコアリング)

一つの質問に対して複数の行で回答する質問において、1行のデータのみがスコアとして考慮される場合があります。このスコアリングアプローチにより、組織は、回答が不完全な場合や、詳述したすべての行動が採点基準に定められたベストプラクティスを満たしていない場合でも、質問に対して包括的な回答を提供できます。そのため、ベスト・ロウ・スコアリングは通常、行動、プロセス、または目標の記述が1つの説明で十分な場合に使用されます。

ベスト・ロウ・スコアリングのアプローチは、採点基準では「1行を採点」と表記されます。これらの設問では、すべてのスコアレベルで最高のスコアを獲得できる行に対して得点が付与されます。各スコアレベルは連続的に評価されます。例えば、情報開示レベルと認識レベルでは満点を獲得したものの、マネジメントレベルの得点がゼロである行は、情報開示レベルで部分点を取得し、認識レベルで満点を獲得した行よりも良いスコアだとみなされます。

集約された質問書におけるスコアリングのアプローチ

組織は1つの情報開示の中で複数の環境課題に関するデータを提供できるようになりましたが、各環境課題は引き続き分野別にスコアが付き、独自のスコアリング基準が用いられます。複数の環境課題に関するデータの開示とスコアリングのアプローチは、各質問の構成と要求されるデータによって異なります。

環境課題が集約されたモジュール内の多くの設問は、各環境課題領域のデータを別々の欄にまとめて開示することを組織に求めています。特に指定がない限り、特定の環境課題に対するスコアリングは、

関連する行に記載されたデータのみを実施されます(「気候変動」の採点基準では「気候変動」の欄に提供されたデータのみが評価されます)。

一部の設問では、組織は定められた欄から関連する環境課題を選択することで、その環境課題に関連するデータの行を特定する必要があります。上記と同様、特に指定がない限り、該当する欄に記載されたデータのみが採点対象となります。組織が該当する環境課題を所定の欄で選択しなかった場合、その回答はスコアリングにおいて考慮されず、質問に対してその環境課題については非開示のペナルティを受ける可能性があります。

集約されたモジュール内の他の質問では、提供されたすべてのデータが、開示されているすべての環境課題について評価される場合があります。これらの質問は、組織の回答がすべての環境課題において一貫している可能性が高く、複数の分野に同時に報告する負担を軽減することができます。これらの設問の採点基準は、すべての環境課題に共通する場合もあれば、それぞれの環境課題に最も関連するデータポイントによって異なる場合もあります。組織は CDP のコーポレート完全版回答ガイダンスで、質問が開示するすべての環境課題に対して採点されるのか、それとも特定の環境課題にのみ適用されるのか、注意深く確認することをお勧めします。

集約された各設問に適用されるスコアリングのアプローチは、設問ごと、スコアレベルごとに採点基準に明記されています。

回答ルート

場合によっては、設問の採点基準が別々の回答ルートで編成されていることもあります。これらのルートでは、質問に対する回答や、その回答に関連する後続のデータポイントに応じて、組織が採点されるさまざまな方法を詳述しています。例えば、組織が質問に「はい」と答えた場合と「いいえ」と答えた場合では、異なる回答ルートが適用されることがあります。すべての環境テーマを集約した質問書の中で、特定の環境課題領域についてのみ回答がある場合、それぞれの環境問題をどのように扱うかを示すために回答ルートを使用することもできます。

他の質問との照合

スコアリング全体において、採点基準は関連する他の質問のスコア/回答を参照することがあります。場合によっては、ある質問でポイントを付与されていることが、別の質問のポイントを獲得するための前提条件となります。また、ある質問でポイントを付与されていることによって、別の質問のポイントを獲得することができます。このように、他の質問を参照することは、組織の回答の一貫性を保証するためのスコアリングメカニズムです。

自由記述回答の評価

マネジメントとリーダーシップのスコアレベルにおいて、いくつかの設問は回答者が提供する自由記述の内容で評価されます。自由記述の回答を評価するには、明確な根拠を示すこと、説明を提供すること、および時間軸を添えた事例を示すことという 3 つの主な方法があります。

原則として、自由記述の回答は、評価の対象となる環境課題領域に明らかに関連している場合のみ、採点基準を満たすとみなされます。重複したテキスト回答(例: 質問間または環境課題領域間でコピーして貼り付けたものなど)は、それぞれ特定のケースの文脈で意味が通り、スコアリング基準で求められる具体的な詳細を提供している場合のみ、得点の対象となります。一般的に、回答者は、各質問や環境課題領域、または開示する欄に合わせてテキスト回答を調整し、テキストをコピーするときには注意を払う必要があります。

明確な根拠

いくつかの質問書内の設問では、「明確な根拠」を提供するとポイントが付与される場合があります。これらは、回答企業によって実施された方法論、説明、決定および行動に対する論理的な根拠を提供する説明として定義されています。

説明の記述

いくつかの設問では、特定のトピックに関する説明を提供することで得点が付与されます。記述では質問に対して提供される回答の理由を明確に説明する必要があります。「これは当社の事業には関係ありません」というような記述は、なぜどのようにそのトピックが自社に関連性がないのかが説明されていないため、説明とはみなされません。この場合の良い回答例は、次のとおりです。「鉱業会社として、地方自治体の取水は〇〇の事業所にのみ関連しています。これらの取水量は、当社の採掘事業における直接の取水と比較して最小限であり、重要とは見なされないため報告しません。」

時間軸を含む事例

いくつかの設問では、時間軸を含め、実施した行動の例を提示することで得点が付与されます。これにより、データ利用者は、記述されたプロセス、コミットメント、または戦略が、組織によって取られた行動に反映されているという確信を得ることができます。事例では、設問テーマの文脈で行われた行動や決定を詳細に説明する必要があります。行動には、意思決定、実施されたプロジェクトや活動、設定された目標やコミットメントなどが含まれます。事例には、その行動の時間軸に関する詳細も含まれていなければなりません。例えば、その行動を実施した年、またはその行動が現在も継続している場合は開始日などです。

免責事項

CDP スコアは、CDP 回答に記載されている活動と内容に基づいています。このスコアは、企業の持続可能性や「グリーン」のレベルを包括的に示すものではなく、環境フットプリントに関する特定の指標ではありません。しかし、報告年中の環境課題へのインパクト、環境課題により及ぼされる影響を評価し管理するために企業が行っている行動のレベルを示す一つの指標となります。

CDP2024 スコアリング基準は現在も発展段階にあります。スコアリング基準は一般に公開され、回答企業がどのように得点を与えられるのかを示しています。最新のリスク管理戦略やベストプラクティス、回答データの質、スコア結果に基づき、CDP はスコアリング期間前や期間中を通して、基準や質問のウェイトを変更する権利を留保します。

フィードバックとお問い合わせ先

スコアのフィードバックを受けたい場合、およびスコアリング基準に関する質問やご提案がある場合、並びに一般的な質問はヘルプセンター([英語](#) / [日本語](#))からお問い合わせください。

付録 I - 利益相反に関するポリシー

回答スコアリングにおける利益相反に関するポリシー

高品質の情報を提供する、独立した公平なプロバイダーとしてのCDPの評判を維持することが最も重要です。したがって、CDPIは、本ポリシーを採用し、質問書に回答した企業に対して当組織が与えるスコアの正確性に影響を及ぼす可能性がある利益相反のリスクを最小限に抑えます。

スコアリング基準の作成

1. CDPスコアリングチームは、CDPの使命を推進し、環境課題に関する科学的知識を考慮に入れ、回答企業を公平に扱うような方法でCDPスコアリング基準を作成する責任があります。スコアリングチームはこれらの要素のバランスを取り、それらについて独立した決定を下さなければならず、利益相反の可能性を最小限に抑えるために、チームメンバーの誰もが企業との継続的な関係に責任を負いません。

スコアリングプロセス

2. CDPスコアリングチームは、スコアリングプロセスの実施、スコアリングパートナーのトレーニング(下記の第4項で定義)、および発表前のスコアの検証を監督します。スコアリングチームは他のCDPスタッフに協力を要請することができます(例えば、特定の基準を満たすかどうかをチェックするために添付ファイルを翻訳するなど)。しかし、そのようなスタッフは未発表の回答またはスコアへのアクセスを許可されておらず、全てのスタッフは常に下記の第7項の禁止の対象となります。
3. 回答企業から提出された回答は、企業によって、またはCDPスタッフの指導によってのみ修正が可能です。
4. CDPIに代わってスコアリングを行う機関(スコアリングパートナー)は、CDPIによって認められ、CDPのトレーニングプログラムを完了し、CDPスコアリング基準を一貫して適用させるための内部のクオリティアシュアランスプロセスを実施し、スコア公開前の最終チェックのためにCDPにスコアを提出しなければいけません。
5. スコアリングパートナーは、回答企業が自社の創業者、クライアント、競合他社に関係なく、全ての回答企業を平等に扱わなければいけません。従って、
 - a. スコアリング開始前に、スコアリングパートナーはCDPIに、クライアントや創業者、競合他社が回答企業のサンプルに含まれているか、また回答準備やレスポンスチェックサービスを提供した企業が含まれているかをCDPIに知らせなければいけません。
 - b. スコアリングパートナーが回答企業の回答準備やレスポンスチェックサービスを提供していた場合、他のスコアリングパートナーがスコアリングを行います。
 - c. 客観性に影響を与える可能性があるその他の分野でスコアリングパートナーが回答企業と協力している場合、CDPIはそのような回答の全てまたは一部のチェックを行います。

- d. スコアリングパートナーの公平性に懸念がある場合、CDPIはそのようなスコアリングパートナーのスコアに追加のチェックを適用するか、影響を受ける企業が別のスコアリングパートナーによってスコアリングされるように調整します。
- e. スコアリングパートナーがスコアリングのアプローチを平等に適用していないことをCDPが発見した場合、CDPIは直ちにそのスコアリングパートナーとの関係を解除し、影響を受けたスコアを確認および修正します。

スコアに影響を与える資金提供と行為の制限

- 6. CDPもスコアリングパートナーも、スコアの決定に影響を与えることが目的の資金提供は受け付けません。これは、助成金、スポンサーシップ、サービスの販売、またはその他の収入にも同様に当てはまります。
- 7. 回答を修正したり、スコアリング基準やスコア結果に影響を与えたり、あるいは第三者が個人的な利益を得るために支援したりするCDPスタッフやトラスティメンバーの行為は、重大な違法行為とみなされます。